『新型コロナウイルス感染症に関する調査2021』 報告書

公益社団法人　全国私立保育連盟　調査部

＜はじめに＞　この報告書はR3/6/1時点での各施設における状況を調査・考察したものです。

公益社団法人　全国私立保育連盟 調査部（以下、調査部）では、令和2年度に引き続いて、保育施設を対象とした『新型コロナウイルス感染症に関する調査2021』を行いました。コロナ禍と言われてから約1年経った保育施設の状況を記録し、その中から今後の参考になる事例やデータを全国各地の保育施設の皆さんと共有することが目的です。

アンケート調査を実施する際には対象とする出来事やテーマについて、なるべく変動が無い時期を選んでいます。それは調査後に変化があるとその部分が結果に反映されないためです。
そのような判断からコロナ第4波が収束するタイミングで調査を実施しましたが、2021／8／10現在第5波の真っ只中です。これまで緊急事態宣言が発出されることによって感染拡大抑制に一定の効果がありましたが、今の緊急事態宣言でも感染拡大が止められない状況の日本に効く薬、次の一手は何があるのでしょうか？

このコロナ第5波の影響は保育施設においても新しい局面をもたらすことが予想されます。過去に経験したことが無い事象への対応力が問われることが多く、何にどれだけマンパワーを振り分けるかということも重要な要素になります。その判断材料の一つとして、また社会における保育施設の役割を的確に方向付けていく意味でこの報告書をまとめました。

調査結果の分析、考察に関しては現場目線を大切にして行いましたが、コロナ禍における環境の違いによって感じ方や考え方に大きく差が出る傾向がありますので、ご考慮のうえお読み頂ければありがたいです。それぞれの保育現場でご活用頂けるものがあれば幸いです。

＜調査の概要＞
調査内容：本調査報告書に添付した「調査票」に基づくインターネット調査
調査対象：保育施設（1施設1回答で依頼）
調査期間：令和3年6月17日～6月30日
回答数：2,114回答

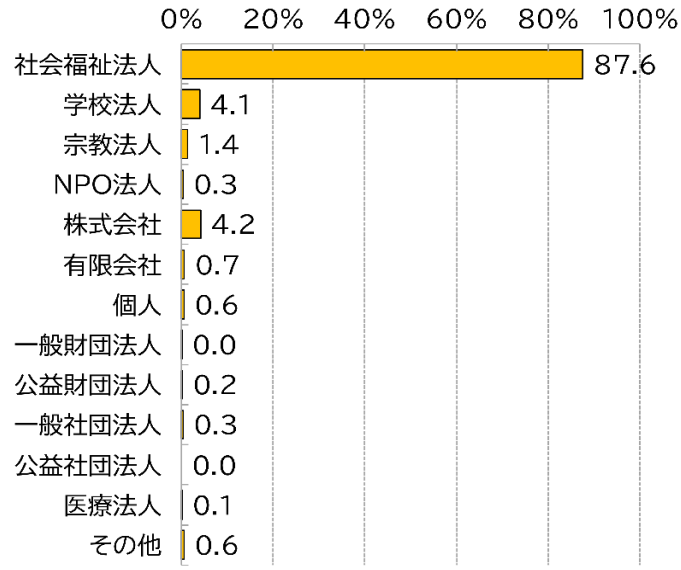
Q15『子ども達の成長や職員のやる気向上につながる事例』の自由記述による　WORD　CLOUD

全国私立保育連盟　調査部　『新型コロナウイルス感染症に関する調査2021』　単純集計

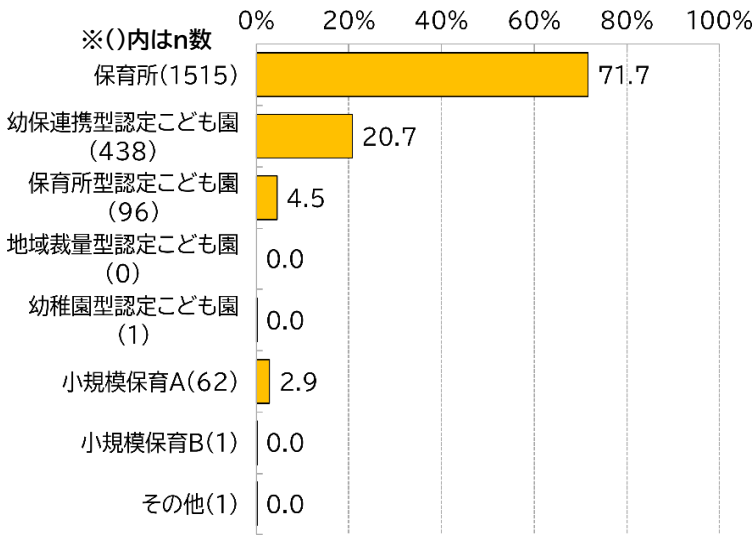
<Q1> ご回答頂いている方の施設がある都道府県をお答え下さい。

都道府県	回答数	都道府県	回答数	都道府県	回答数
北海道	72	石川県	8	岡山県	19
青森県	22	福井県	6	広島県	102
岩手県	13	山梨県	0	山口県	8
宮城県	2	長野県	3	徳島県	61
秋田県	72	岐阜県	52	香川県	1
山形県	25	静岡県	141	愛媛県	1
福島県	0	愛知県	61	高知県	29
茨城県	13	三重県	13	福岡県	223
栃木県	18	滋賀県	16	佐賀県	2
群馬県	45	京都府	73	長崎県	80
埼玉県	18	大阪府	185	熊本県	42
千葉県	76	兵庫県	161	大分県	15
東京都	130	奈良県	7	宮崎県	79
神奈川県	45	和歌山県	6	鹿児島県	39
新潟県	0	鳥取県	17	沖縄県	69
富山県	2	島根県	42	全回答数	2114

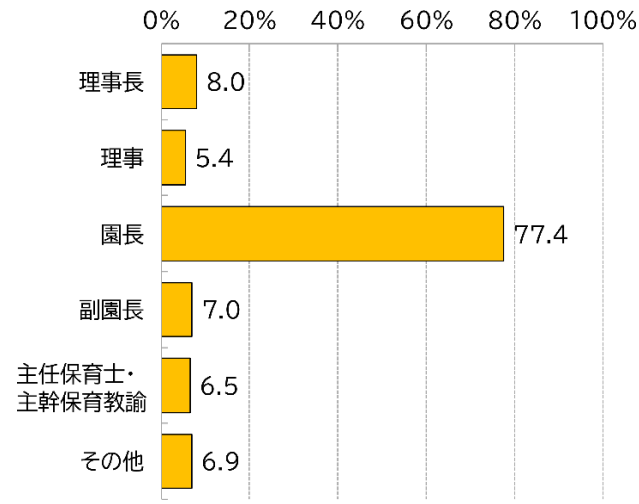
<Q3> ご回答頂いている方の施設の法人格をお答え下さい。



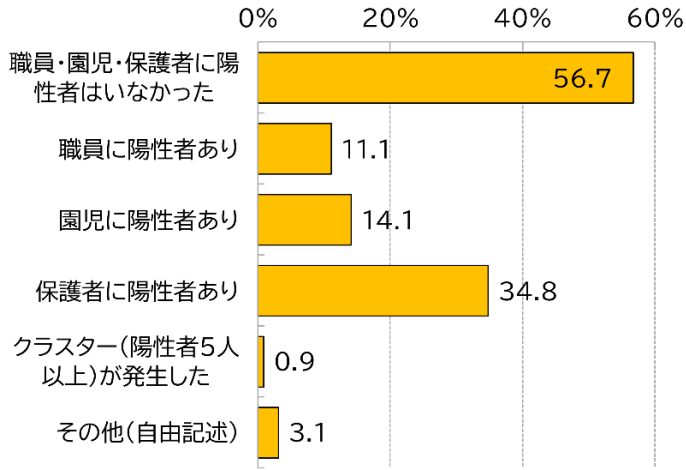
<Q4> ご回答頂いている方の施設の施設種別をお答え下さい。



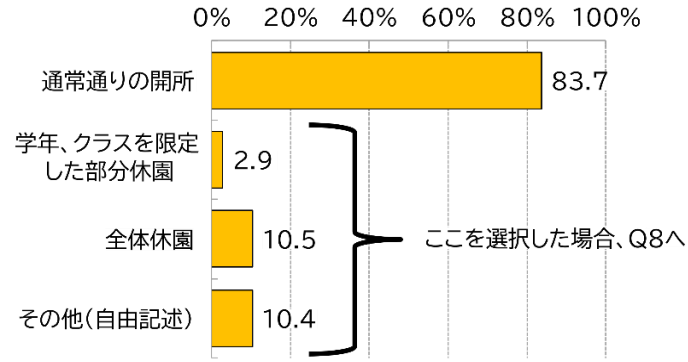
<Q5> ご回答頂いている方の役職をお答え下さい。(複数回答可)



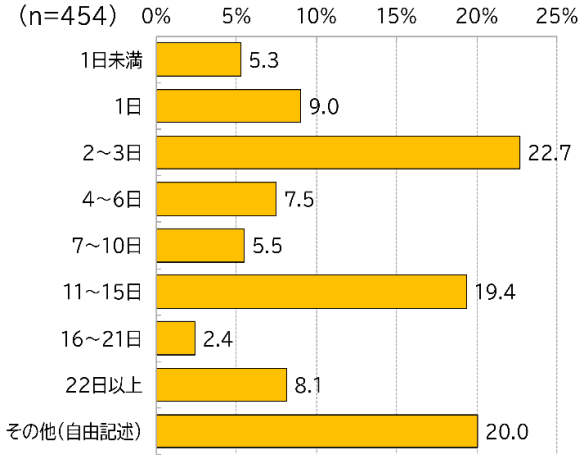
<Q6> 2020年4月から2021年5月までの貴園における新型コロナウイルス感染症の状況を教えて下さい。(該当するもの全てを選択)



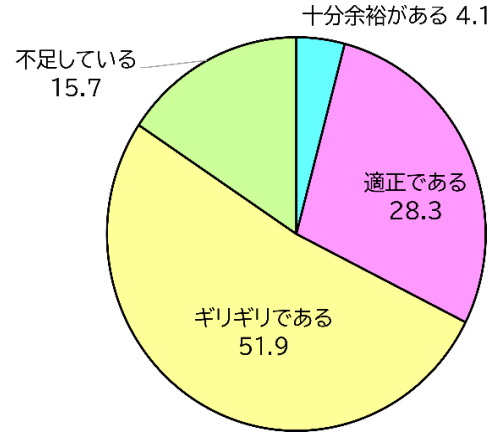
<Q7> 前問Q6の対応として貴園が実施したことを教えて下さい。(該当するものを全て選択)



<Q8> 前問Q7の対応期間としてもっとも近いものを選んで下さい。※土日も含めた日数



<Q9> 通常保育と並行してコロナ感染防止対策を行う人的余裕について教えてください。(%)



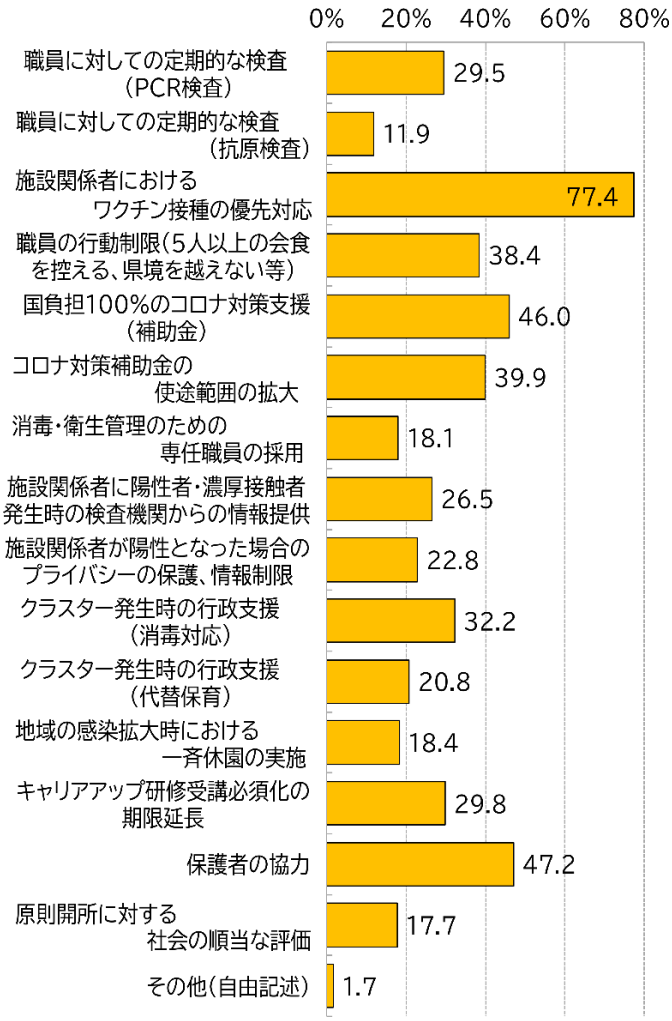
Q10、Q11の横軸項目(共通)

①衛生物資の在庫確保・入手先確保
②職員・来園者用の手指消毒備品設置
③現金を介さない集金システムの導入
④職員の体調管理の徹底
⑤職員の家族を含めた体調不良の報告
⑥搬入・納品事業者への入館制限
⑦登園・降園時の保護者の入館制限
⑧従来より小集団での保育の実施
⑨子どもの検温など体調管理の徹底
⑩園庭の遊具の洗浄や消毒
⑪施設内の遊具・備品の洗浄や消毒
⑫子どもの排便後のトイレ消毒
⑬職員の消毒処理技術向上
⑭職員への感染予防知識提供
⑮間仕切りシートなどによる飛散防止対策
⑯換気窓・換気設備の増設
⑰検温や体調管理に専用機器を導入
⑱次亜塩素酸水等の生成器導入
⑲子ども向け動画の配信
⑳園児に対する感染予防教育
㉑屋外活動の頻度を増やす
㉒外部講師活動の自粛
㉓園外学習・交流の制限
㉔行事における制限(人数、時間、場所)
㉕園から家庭へインターネットを活用した情報発信
㉖テレワーク技術を活用した保護者との対話、会合
㉗職員間においてアプリなどを活用した情報伝達
㉘eラーニング・テレワーク技術等を活用した研修実施
㉙他の保育施設との情報ネットワークの仕組み作り
㉚行政との情報ネットワークの仕組み作り

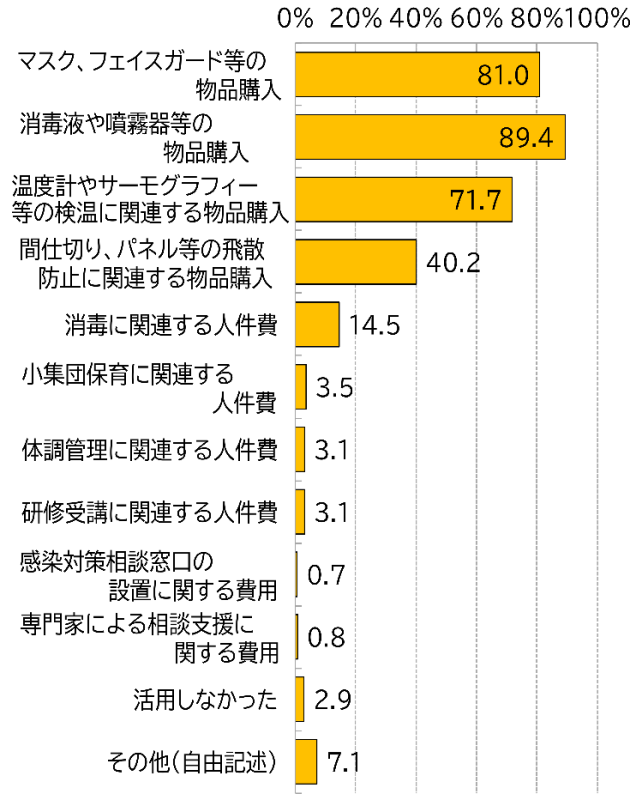
<Q10> 以下のコロナ感染防止対策事例の効果について感じていることを選んで下さい。

<Q11> 以下のコロナ感染防止対策事例(前問と同じ)の労力(手間がかかる、実施がしづらい)について感じていることを選んで下さい。

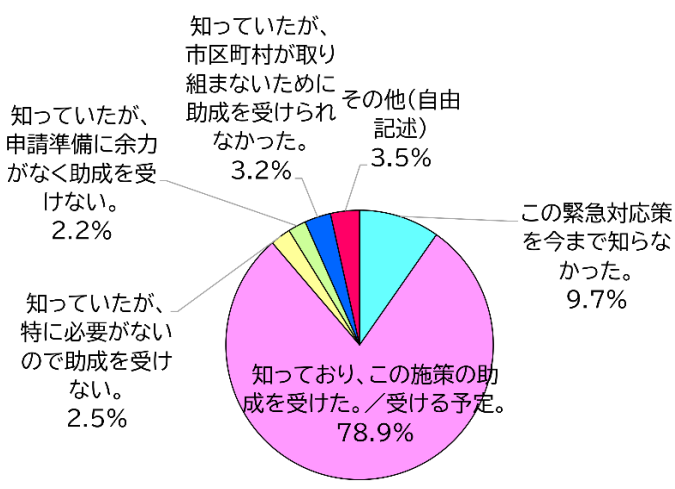
<Q12> Q10、Q11で示した事例以外にも、効果がある、必要とされるコロナ対策が考えられます。
以下の事例の中で効果がある、必要とされると思われるものをお選び下さい。(複数回答可)



<Q13> 国の令和2年度第2次補正予算である『保育所等におけるマスク購入等の感染拡大防止対策に係る支援』(補助割合 国:10/10)で活用した事例をお選び下さい。(複数回答可)



<Q14> 国の令和2年度第3次補正予算である『保育所等におけるマスク購入等の感染拡大防止対策に係る支援』
(補助割合 国:1／2、市区町村等:1／2)
(令和3年度にも活用可能)についてお答え下さい。
(今後の見込みを含めてご回答下さい。)



●Q15 厳しいコロナ禍にあっても子ども達の成長や職員のやる気に向上につながる取り組みやエピソードがあれば教えて下さい。(自由記述)

●Q16 新型コロナウイルス感染症全般に関するご意見(自由記述)

については『自由記述』回答であるため考察⑨、⑩をご参照下さい。

＜調査項目・回答項目の省略について＞

今後の考察における図やグラフ等において、各設問の調査項目や回答項目を紙面の都合上、省略している箇所があります。
それらの部分については2～5ページの『単純集計』、または最終頁の調査項目をご参照ください 。

＜＜ コロナ調査2021　結果概要 ＞＞

調査結果の分析、考察については調査部内で担当者を決め、なるべく多くの視点から全体像を把握できるよう努めた。今回の調査から見えた10の考察と3つのコラムのテーマを掲載順にここで紹介する。

まとめ ＜コロナ禍で生まれ、コロナ禍で育つ子ども達に何が出来るか＞

考察① コロナ感染状況の都道府県による違い
～保育施設の職員の感染予防意識はかなり高い～

考察② コロナ禍でも保育施設は原則開所に努めている
～職員・園児に陽性者が出ても感染対策によりほぼ半数は通常開所～

考察③ 陽性者が判明した際の施設の対応
～対応期間のピークはPCR検査の結果待ちと2週間の自宅待機～

コラム① 濃厚接触の扱いについて

考察④ 通常保育と感染予防の人的余裕（過去の結果と比較して）
～コロナ禍において業務の負担がさらに深刻化～

考察⑤ コロナ感染防止対策の効果と労力
～感染対策の基本は持ち込まない、拡げない～

考察⑥ 保護者の理解と協力
～コロナ感染予防には保護者からの情報と理解と協力が不可欠～

考察⑦ クラスター発生時の支援
～クラスター発生時を想定した行政との協議・対策が望まれる～

コラム② 保育実施と感染予防対策の現状

考察⑧ 支援を的確に受けながらの施設運営
～行政の簡潔で分かり易い情報の発信と、施設の常に情報を取りに行く姿勢が今後は必要～

コラム③ 国の支援がより現場で活用されるために

考察⑨ コロナ禍でも前向きに（Q15自由記述から）
～子どもの成長と笑顔が保育現場の原動力～

考察⑩ 園児受入と感染予防対策の矛盾（Q16自由記述から）
～社会における保育施設の『現場の理解』と『正当な評価』を望む声～

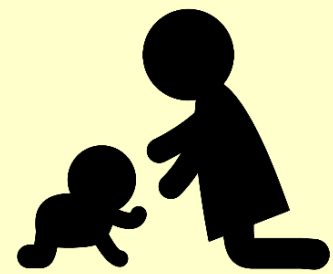
まとめ　＜コロナ禍で生まれ、コロナ禍で育つ子ども達に何が出来るか＞

8月に入り、オリンピックで盛り上がるニュースの合間に流れるコロナの新規感染者数を見ては驚いてため息をつく毎日が続いています。

本調査を6月末に締め切った時点では保育施設関係者のワクチン優先接種実施の話があちこちから聞こえ、多くの方々が施設内での感染を起こしてはいけないとずっと張り詰めていた不安を少し和らげたのではないでしょうか。しかしこの報告書のまとめをしている8月中旬においてはデルタ株の影響などもあり、ワクチン接種においても3度目が先か、全ての国民が2回するのが先かの議論に変わってきています。

最近のコロナに関わる報道において、保育施設で感染が広がっているのではないか？というものがありますが、これまでのコロナ関連の調査を通じて、そもそも保育施設は感染予防の面ではかなり脆弱な環境であると感じています。その理由は
①毎日通園してくる園児（乳幼児）にどこまで感染予防を徹底できるのかということ。保育をしていると目の前で子どものくしゃみをあびることもあります。
②園児と密接な関係にある保護者自身の感染予防の意識を統一的に高めたり、行動制限をするのは難しいこと。保育施設を利用している保護者は特に自粛した行動をして下さい！という行政からの方針は聞いたことがありません。
③1:3、1:6、1:15、1:20の配置基準を前提にした人的保育環境で感染を避けるのは難しい。集団を前提にしているのだから当然感染も拡大しやすい環境です。
そして感染予防といえばよく飲食の場面が着目されますが、保育施設と言えば給食です。既に実施されている施設もあると思いますが黙食の実施まで求められるとなると本当に子どものための生活になっているのかなという疑問が浮かんできて、どんどん保育がやりにくくなっている印象をお持ちの方も多いと思います。

そのような状況下で、今回の調査で最もお伝えしたい内容はコロナ禍での前向きな取り組みです。数々の事例や考え方を回答者の皆さんから教えて頂きました。そこから感じたのはコロナ前と比べて不自由や不満を感じるのは大人だけで、コロナ禍で生まれ、コロナ禍で育つ子ども達にとってはただの日常であること、その日常を楽しく有意義に過ごすために私達が出来ることは何かを考える事の必要性です。マスク越しでも笑い合える経験を一つ一つ重ねていくことの大切さを改めて感じました。

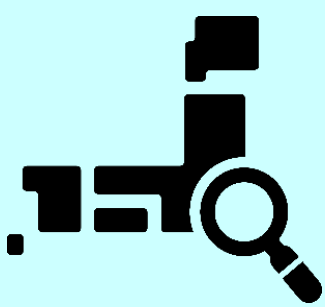


保育に関することは数字で表そうとするとが難しいことが多いですが、保育現場が社会からより理解されるには実態や利用する方々、働く方々の意識を今後も調査、発信していくことが重要だと考えています。次回もまた多くの皆様からご協力を頂きますようお願い申し上げます。

＊まとめ担当
山形県・子供の城保育園　齊藤　勝
＊考察担当
①②③　岐阜県・川島東こども園　川島俊樹
④⑤⑥⑦⑧⑩　山形県・子供の城保育園　齊藤　勝
⑨　和歌山市・のざき保育園　小川幸伸
＊コラム担当
①　千葉県・音のゆりかご保育園　久居麻紀子
②　長崎県・認定こども園島地シティ夜間保育園　桑原靜香
③　徳島県・とくしま健祥会認定こども園　田中育美

考察① コロナ感染状況の都道府県による違い

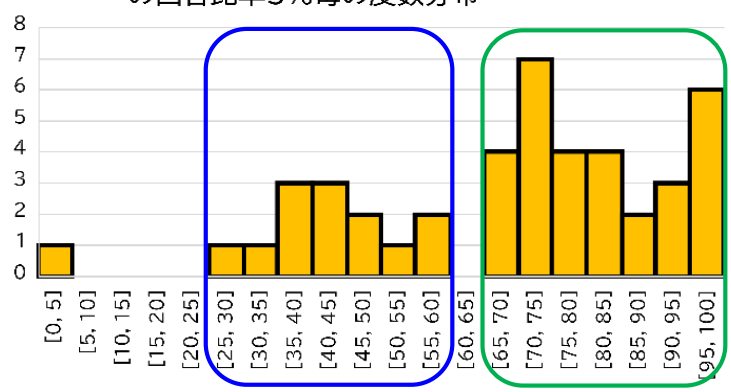
図 Q1とQ6、Q7のクロス集計		Q6 令和2年4月から令和3年5月までの貴園における新型コロナウイルス感染症の状況について、以下の内、該当するものを全て選択してください。(%)						
		全体の実数	陽性者はいなかった	職員に陽性者あり	園児に陽性者あり	保護者に陽性者あり	クラスター発生	その他(自由記述)
全体		2114	57	11	14	35	1	3
Q1 ご回答頂いている方の施設がある都道府県をお答えください。	北海道	72	40	21	26	47	0	4
	青森県	22	68	0	5	18	0	14
	岩手県	13	85	0	0	15	0	8
	宮城県	2	100	0	0	0	0	0
	秋田県	72	94	0	1	4	0	1
	山形県	25	92	0	0	8	0	4
	福島県	0	0	0	0	0	0	0
	茨城県	13	85	0	8	0	0	8
	栃木県	18	78	6	6	17	0	0
	群馬県	45	58	16	11	29	0	2
	埼玉県	18	72	11	6	22	0	0
	千葉県	76	55	9	16	38	4	0
	東京都	130	36	21	22	47	1	4
	神奈川県	45	38	27	22	49	0	7
	新潟県	0	0	0	0	0	0	0
	富山県	2	0	0	0	100	0	0
	石川県	8	75	0	13	25	0	0
	福井県	6	100	0	0	0	0	0
	山梨県	0	0	0	0	0	0	0
	長野県	3	67	0	0	33	0	0
	岐阜県	52	71	6	12	23	0	0
	静岡県	141	72	1	9	24	0	4
	愛知県	61	48	7	20	46	2	3
	三重県	13	85	15	0	0	0	0
	滋賀県	16	69	6	6	25	0	0
	京都府	73	36	22	32	47	1	4
	大阪府	185	31	23	30	55	2	4
	兵庫県	161	43	13	18	48	2	4
	奈良県	7	71	14	0	14	0	0
	和歌山県	6	67	0	0	33	0	0
	鳥取県	17	82	0	0	18	0	6
	島根県	42	100	0	0	0	0	0
	岡山県	19	74	0	5	26	0	0
	広島県	102	53	14	11	40	2	2
	山口県	8	88	0	0	13	0	13
	徳島県	61	75	2	5	23	0	2
	香川県	1	100	0	0	0	0	0
	愛媛県	1	100	0	0	0	0	0
	高知県	29	72	7	7	21	0	3
	福岡県	223	44	13	17	46	1	2
	佐賀県	2	100	0	0	0	0	0
	長崎県	80	86	0	3	13	0	3
	熊本県	42	48	17	12	48	0	0
	大分県	15	93	0	0	0	0	7
	宮崎県	79	77	8	5	13	1	4
	鹿児島県	39	79	3	3	21	0	0
	沖縄県	69	29	17	17	57	0	9



Q6では、園の関係者においての新型コロナウイルス感染者の有無を調べた。アンケート実施の時点で陽性者がいなかったのは57%で、すでに半数弱の施設で関係者が感染した経験があった。その内訳は、職員が陽性となったのが11%、園児が陽性となったのが14%、保護者が陽性となったのが35%あった。なお、陽性者5人以上のクラスターが発生した園が1%(19件)あった(重複あり)。(赤枠)

今回の結果は施設がある地域の感染状況の影響を大きく受けていると考えられるのでQ1とQ6のクロス集計を試みた。(左図) 予想通り都道府県による違いが大きく、例えばQ6の『陽性者はいなかった』では全体平均が57%であるが、都道府県別のデータでは0～100のように大きな違いがあった。この結果の傾向を可視化するために度数分布を作成した。(下図)

Q1[都道府県]ごとのQ6[陽性者はいなかった]の回答比率5%毎の度数分布



北海道、群馬県、千葉県、東京都、神奈川県、愛知県、京都府、大阪府、兵庫県、広島県、福岡県、熊本県、沖縄県

平均値69%
(回答のない都道府県は除く)

度数分布の傾向は60%未満と65%以上との2つに分かれた。(青枠、緑枠)

このように傾向が2つに分かれる場合には、全体の平均値を用いて考察するほかに、2つの特徴を考慮する必要がある。青枠の地域と緑枠の地域では、職員の不安・緊張感などでかなり違いがあることが予想され、今後の検討課題である。

この考察の最後になるが、「保護者陽性者あり」比率より、「職員陽性者あり」比率は圧倒的に少ない。母集団の偏りはあるが、多くの保育施設の職員が私生活においても世間一般の人々より、感染予防に気を使った生活をしていると考えてもよいのではないだろうか。

考察② コロナ禍でも保育施設は原則開所に努めている

Q7の結果によると、この期間に行った対応としては通常通りとの回答が多かった。その他（自由記述）というのは、「登園自粛」「自宅待機」「家庭保育」「自主判断」「幼稚園は休み、保育所は開所」などの対応である。この対応については感染者の有無に影響をうけると考えられたため、Q6とQ7のクロス集計で陽性者の属性別にどのような対応をとったのかを検討した。

Q6とQ7のクロス集計		Q7 前問Q6の対応として貴園が実施したことを教えてください。(%)				
		実数	通常通りの開所	部分休園	全体休園	その他（自由記述）
全体		2114	83.7	2.9	10.5	10.4
Q6 令和2年4月から令和3年5月までの貴園における新型コロナウイルス感染症の状況について、以下の内、該当するものを全て選択してください。	陽性者はいなかった	1198	93.8	0.0	0.7	8.7
	職員に陽性者あり	234	45.3	12.4	53.0	13.7
	園児に陽性者あり	299	50.2	14.0	43.1	15.1
	保護者に陽性者あり	736	78.0	4.9	17.3	12.0
	クラスターが発生した	19	5.3	26.3	84.2	5.3
	その他（自由記述）	66	74.2	6.1	15.2	30.3

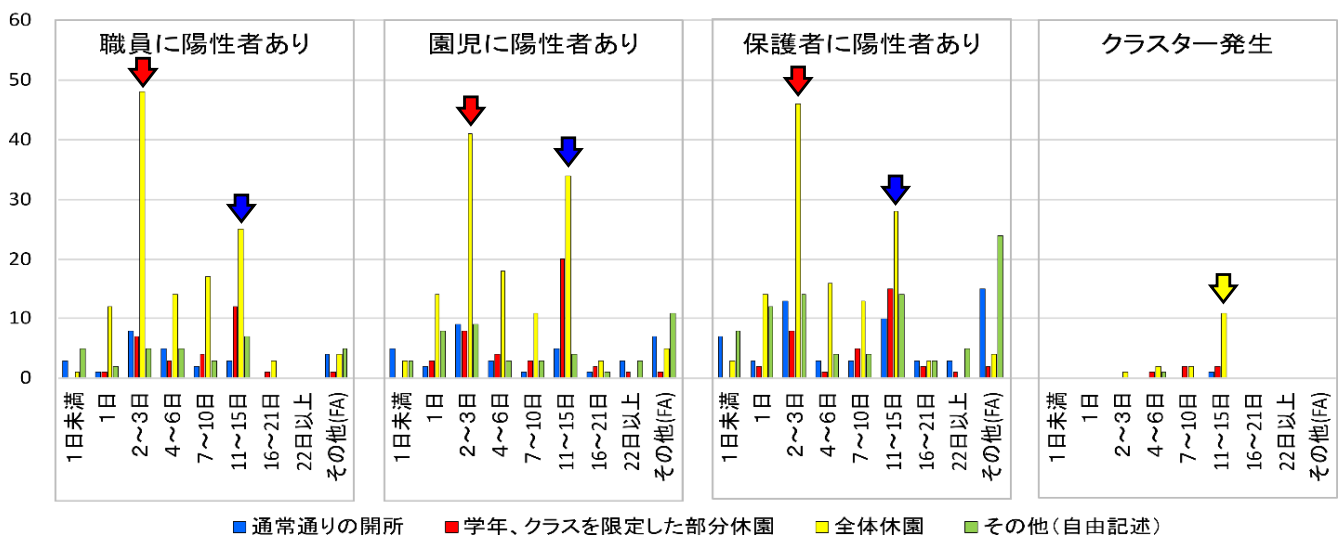
職員や園児が陽性となった場合には、通常通りの開所をした園と全体休園とした園と、大きく対応が分かれていた。（赤枠） このことには、市区町村の考え方が大きく影響していると思われる。また陽性者が出ても通常通りの開所が出来ていることは、施設内に他の濃厚接触者がいないと判定された事が予想されるので、施設内での予防対策が徹底しているためと考えられる。

保護者に陽性者が出た場合には、8割弱が通常通りの開所としていたが、全体休園や部分休園とした施設もあった。（青枠）
クラスターが発生した際には8割が全体休園となっているが、大事をとっての判断だったと思われる。

考察③ 陽性者が判明した際の施設の対応

Q8では、休園等の対応をした期間について尋ねている。下図は陽性者の属性（Q6）、対応方法（Q7）別にその対応期間（Q8）を比較検討したものである。（Q7とQ8のクロス集計）

Q6Q7Q8のクロス集計（回答件数）



施設関係者がコロナ陽性者と判明された場合、全園休園をするケースがもっとも多く（222施設）、その期間は2~3日（赤矢印）と11~15日（青矢印）にピークがあった。
PCR検査の結果が出るまで全体休園、その後職員・園児など濃厚接触者と判断された状況をみて、部分休園や引き続き全体休園の判断がなされたのだろう。またPCR検査で陰性だったとしても偽陰性の可能性を考慮して2週間自宅待機とされたケースも推測される。クラスターが発生した場合には、11日以上全体休園とした事例（黄矢印）が多く、とても大きな影響を与えていたことが分かる。

コラム①　濃厚接触の扱いについて

幾度も繰り返す非常事態宣言や蔓延防止措置の発令など長引くコロナ禍ではニュースで流れる感染者情報も天気予報を観ているような感覚にもなっているのは私だけでしょうか。感染リスクを気にしつつも私たちの暮らしは、少しずつ普段通りになっており外出してみると人の流れはひと頃の感染対策の緊張感と比べると随分変わってきていると感じています。とはいえ、ワクチン接種が進み少しずつ日常生活に近づいているとはいえ、デルタ株などの変異ウイルスは当面沈静化の兆しを見せず、まだまだ感染対策を怠ることはできません。

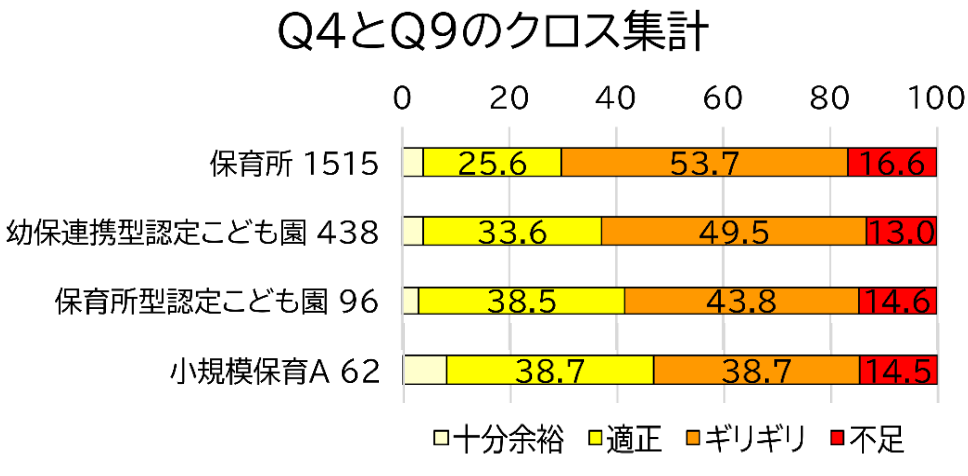
陽性者発生対応に関して言えば、自園で発生したため半年ほど前の出来事ですが未だ鮮明に記憶しているところです。年が明け1～2週間明けた頃、一本の電話が鳴りいつものように電話に出ると「すみません･･･」と泣きながら職員の声が耳に入ってきました。
その瞬間、「あっ　きた。」と「大丈夫よ。気にしなくていいよ。」という言葉を掛けるだけが精一杯でした。感染しても誰の責任ではないことは事前に職員間で周知していたにもかかわらず職員自身も自責の念に駆られているのか謝るばかり。「そんな必要はないのに」と思いながらもあの頃の陽性者や濃厚接触者への世間が抱く意識は、現在のものとでは随分違ってきていたと感じています。

陽性者発生の際、自園でも1日だけ休園対応を行いました。職員から陽性の報告を受けた時、正直どのような手順で翌日以降の対応はもちろん今できることすらどのような事があるのか思いつかなくなるような不安な状況だったことを思い出します。子どもたちの安全や濃厚接触者の棲み分け、職員も含めた全ての関係者へ配慮など突然降りかかった対応に苦悩しながら、これまでメディアや近隣施設の情報を聞いて心配していながらも何となく他人事として捉えていた自分の甘さに対し猛省しました。

対応の初期段階は、濃厚接触の定義に当てはめれば該当する職員が誰で何人くらいなのかという濃厚接触者の割り出しから始めました。その状況を把握するために陽性になった職員との関わりをヒアリングしていると情報がいかに錯綜しているかということに驚き、情報整理の重要性を痛感しました。結果的に、「濃厚接触者無し」という判断に至り胸を撫で下ろしましたが、日常より実践されていた記録管理や職員の自主的かつ適切な判断、行動が助けに繋がったと思われます。そして情報収集する時の人間の記憶の曖昧さは思っていた以上でした。判断する上での冷静さや優先順位の見極めは心がけていたとしても迷うことではありますが、日頃の職場内でのコミュニケーションや関係性は、とっさの時の力となりうる事となるのだと強く感じました。

今回の調査では、殆どの施設が休園の対応はなく通常通りで開園できているという報告結果とのことで何よりです。未然の対応策が日頃より実行できている証しなのではないでしょうか。保護者の意識の変化はもとより、勤務先での対策、在宅勤務や時差出勤など勤務のあり方などもコロナ禍だからこそ見直され、子どもを引き受ける私たち保育者も寛容になってきた結果なのではないかと感じるところです。

考察④　通常保育と感染予防の人的余裕（過去の結果と比較して）



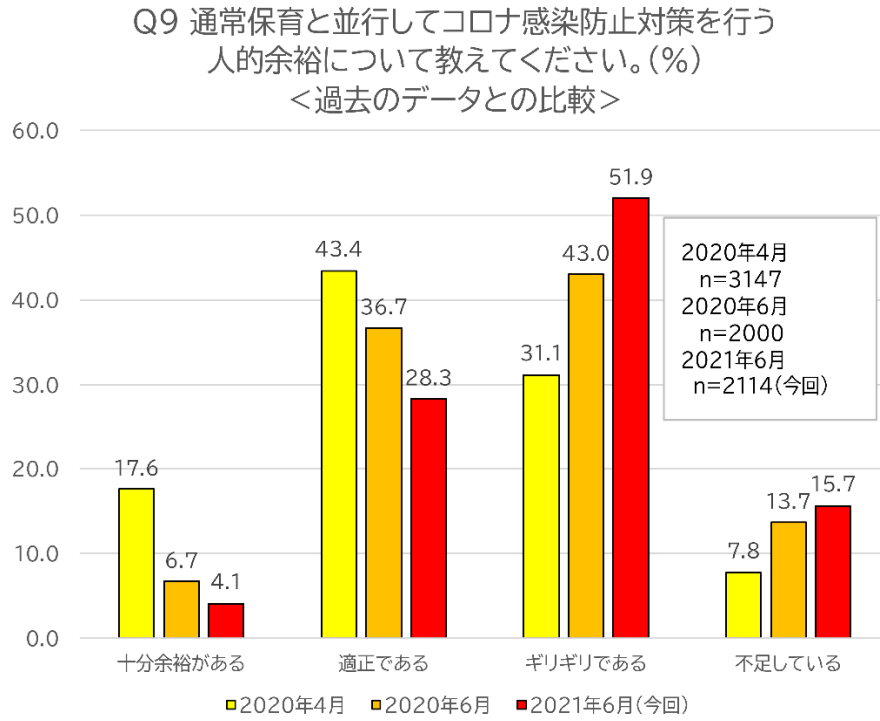
（[その他]を含む回答数10以下の項目は割愛）

Q9『通常保育と並行してコロナ感染防止対策を行う人的余裕について』の結果をより深めるために、回答者の施設種類別の人的余裕を左図に示す。（Q4とQ9のクロス集計）

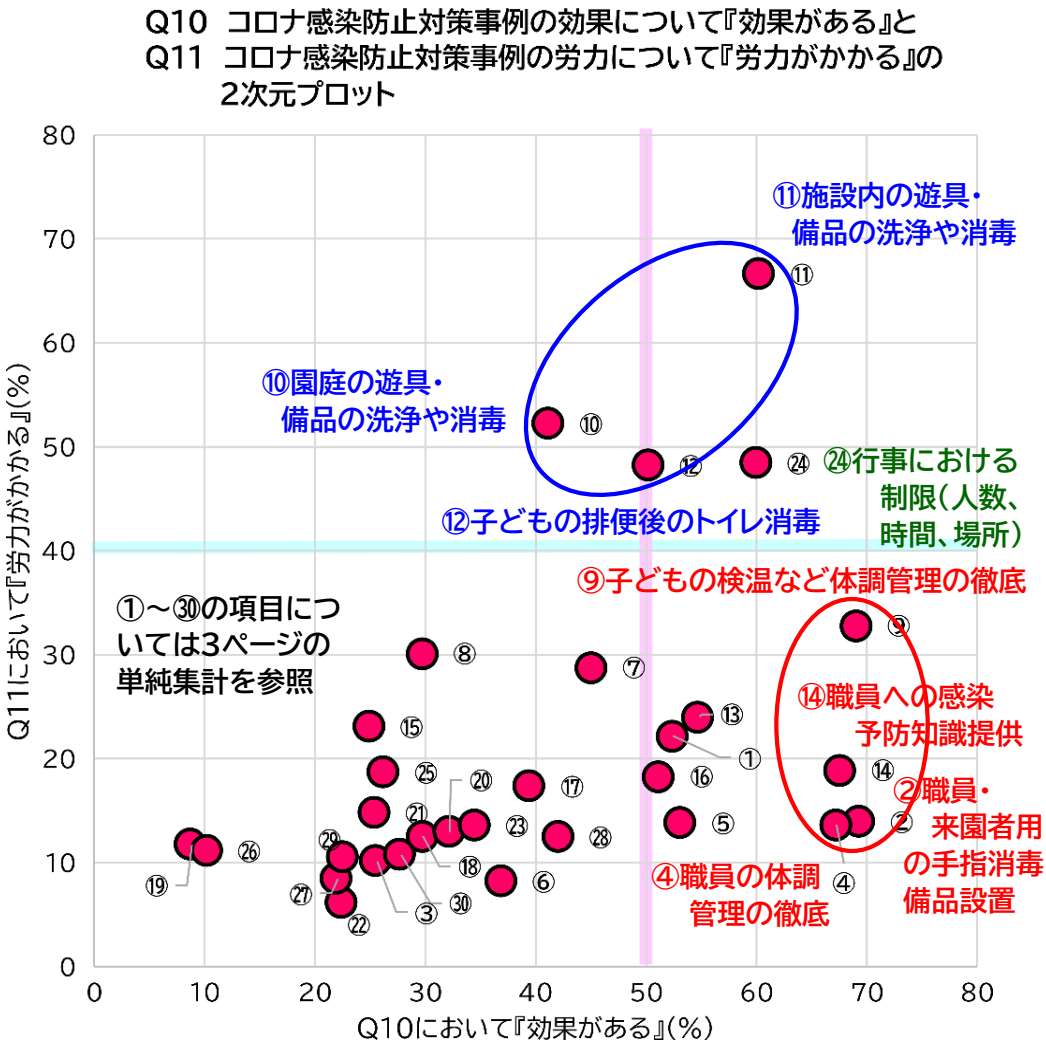
回答数が最も多い保育所の人的余裕が適正の回答比率が少なく、約7割がギリギリまたは不足と回答しており、保育所の潜在的な人員配置の厳しさが表れている。

またQ9『通常保育と並行してコロナ感染防止対策を行う人的余裕について』は2020年4月、2020年6月にも同様の内容で調査している。時間が経つにつれ施設における感染防止対策を行う人的余裕がない状況へとシフトしている。コロナ禍が日常化して登園する子どもの数は平常通りに戻るなかで体調管理や消毒対応の業務に負われていることが分かる。

コロナ以前に行った保育職の働き方調査で日々の業務を行う時間の余裕の少なさが明らかになっていたが、この一年で更に深刻化したように思う。



考察⑤　コロナ感染防止対策の効果と労力



前の考察では感染予防の業務が増加していることに触れたが、Q10とQ11では感染防止対策の効果と労力について考えてみたい。この問いを設けた理由は多種多様にある感染防止対策の中で各施設がどの様な考えのもとに対策を行っているかを明らかにしたかったからである。

Q10とQ11の単純集計からだけでも様々な考察が可能だが、Q10の『効果がある』とQ11の『労力がかかる』の回答比率に着目し、2次元プロットした図をもとに考察を進める。

おおよそ『効果がある』では50%前後(淡赤線)、『労力がかかる』では40%前後(淡青線)に傾向が分かれた。

感染防止の基本であるコロナを持ち込まない、拡げないを具体化しているように赤枠内の項目④⑨で園児、職員の体調管理を徹底している。また拡げないという意味では青枠内の項目⑩⑪⑫に見られるように接触頻度の高い箇所の洗浄・消毒が行われているようだ。(㉔行事における制限(緑字)についてはQ12との関連が深いと思われるので次の考察で触れる。)

考察⑥　保護者の理解と協力

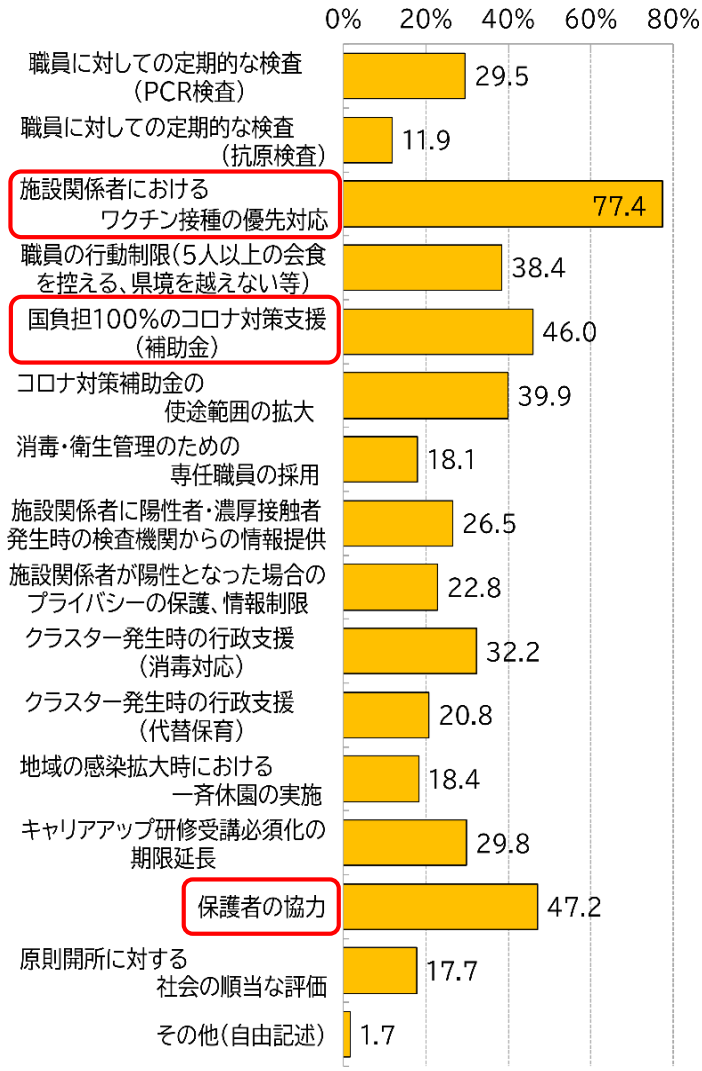
Q12ではQ10Q11以外のコロナ関連対策を尋ねた。回答比率4割を越えたのは、
①『施設関係者へのワクチン接種の優先』、
②『保護者の協力』、
③『国負担100%のコロナ対策支援』
の3つであった。
（③のコロナ対策支援については考察⑧で後述する。）

1番目のワクチンの優先接種については、全国の市区町村において保育施設関係者への優先接種が行われている事例を聞く機会が多く、施設側の不安の軽減につながっていると思う。また何より保育施設が社会への貢献を果たしていると認められた証であり、働く職員の努力が報われた思いがする。

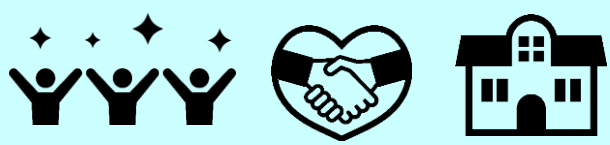
2番目の保護者の協力は約半数の回答を得た。回答項目としては非常にシンプルであるが重要な項目であることがわかる。
施設がある地域の感染状況によって対応は異なると思うが、保育施設において利用者や職員のコロナ罹患の可能性を日常的に判断するのは多くの場合、体温確認くらいしかないが無症状の事例も多いことから十分とは言えない。むしろ同居家族などの状況から類推する方が的確な場合があるようにも思う。そのように考えると保護者からの情報は非常に貴重であり感染防止の重要な要因となっている。

園児の軽度な体調不良であっても自宅待機の協力を得られるかということや、もし園児の家族が濃厚接触者となった場合にPCR検査の判定が出るまで、園児が登園自粛の対応をとってくれるかという点でも保護者の理解と協力は不可欠である。

<Q12>　Q10、Q11で示した事例以外にも、効果がある、必要とされるコロナ対策が考えられます。
以下の事例の中で効果がある、必要とされると思われるものをお選び下さい。（複数回答可）



またQ10Q11のクロス集計において『行事における制限』が労力がかかる事例として上がっているが、規模や人数を制限することは一見、施設側の労力が減るように思われるが、行事の内容を変更することに関して保護者の理解を得ることが難しい場合があるのではないかと感じた。
保護者の就労環境等によって感染防止対策への意識が様々異なる状況下で、施設としての対応基準を決めなければならない事への検討や調整に多くの時間やマンパワーが使われていると予想する。
いずれにしろ保護者の理解と協力があってこそ円滑な施設運営が出来る事をこのコロナ禍で再認識することになった。



考察⑦　クラスター発生時の支援

		Q12　Q10、Q11で示した事例以外にも、効果がある、必要とされるコロナ対策が考えられます。以下の事例の中で効果がある、必要とされると思われるものを最大5つまでお選びください。															
		全体	職員に対しての定期的な検査（PCR検査）	職員に対しての定期的な検査（抗原検査）	施設関係者におけるワクチン接種の優先対応	職員の行動制限（5人以上の会食を控える、県境を越えない等）	国負担100%のコロナ対策支援（補助金）	コロナ対策補助金の使途範囲の拡大	消毒・衛生管理のための専任職員の採用	施設関係者に陽性者・濃厚接触者発生時の検査機関からの情報提供	施設関係者が陽性となった場合のプライバシーの保護、情報制限	クラスター発生時の行政支援（消毒対応）	クラスター発生時の行政支援（代替保育）	地域の感染拡大時における一斉休園の実施	キャリアアップ研修受講必須化の期限延長	保護者の協力	原則開所に対する社会の順当な評価	その他（自由記述）
全体		454	33.9	12.3	76.0	38.8	45.6	40.1	17.8	25.8	21.1	27.8	19.4	22.7	31.1	50.4	15.9	2.9
Q8 前問Q7の対応期間としてもっとも近いものを選んで下さい	1日未満	24	33.3	29.2	75.0	41.7	45.8	41.7	20.8	33.3	29.2	37.5	16.7	20.8	25.0	25.0	20.8	0.0
	1日	41	34.1	7.3	68.3	26.8	53.7	48.8	17.1	26.8	24.4	19.5	14.6	24.4	36.6	58.5	26.8	7.3
	2～3日	103	32.0	14.6	78.6	47.6	45.6	40.8	13.6	30.1	19.4	22.3	14.6	18.4	31.1	52.4	17.5	1.0
	4～6日	34	38.2	17.6	82.4	44.1	35.3	41.2	14.7	17.6	23.5	23.5	8.8	23.5	23.5	64.7	17.6	0.0
	7～10日	25	36.0	24.0	72.0	28.0	52.0	44.0	24.0	20.0	20.0	8.0	20.0	28.0	28.0	36.0	24.0	4.0
	11～15日	88	33.0	8.0	77.3	42.0	42.0	28.4	18.2	20.5	26.1	26.1	18.2	23.9	35.2	58.0	12.5	3.4
	16～21日	11	63.6	0.0	100	36.4	36.4	27.3	18.2	45.5	0.0	9.1	9.1	27.3	27.3	27.3	27.3	0.0
	22日以上	37	21.6	5.4	75.7	37.8	51.4	48.6	27.0	24.3	13.5	45.9	40.5	16.2	24.3	51.4	5.4	5.4
	その他（自由記述）	91	36.3	11.0	71.4	31.9	46.2	42.9	17.6	26.4	19.8	38.5	25.3	26.4	33.0	45.1	11.0	3.3

上図はQ8のコロナ発生時の休園期間とQ12のコロナ支援のクロス表である。この表では休園期間22日以上でクラスター発生時の支援を求める回答比率が大きく上昇している。（赤枠）

施設内で感染拡大することがあれば、その施設だけで消毒や代替保育の手配などの対応をすることはかなり困難であることが予想される。どの園でも起こりうる可能性があることを考えれば平時のうちに危機感を持って行政や地域の施設同士での対応策を検討するべきだろう。

コラム②　保育実施と感染予防対策の現状

保育所において健康及び安全の確保に努めることは保育所保育指針を持ち出すまでもなく重要なことです。今回の新型コロナウイルス感染症では、「保育所における感染症対策ガイドライン（厚生労働省）」や「保育所等における新型コロナウイルスへの対応にかかるQ&Aについて」を基本とし、随時通知される膨大な書類を読み込みながら各園において健康及び安全への対応策強化を行ってきました。

感染拡大初期はデマも含めて玉石混合の情報がメディアやSNSに溢れる中、信ぴょう性に乏しくもとにかく新たに何らかの対策をしなくてはと、保育関係者は様々な感染症対策を迫られました。急激に身近に迫る未知のウイルスに少しでも効果があると言われれば取り入れ、外から入れない、増やさないためにと次々と取り入れた防御策は、やりすぎと思えるほど二重三重にやっても不安は拭えず、止め時を検討するタイミングを失ったまま突き進んできた感があります。

そして新型コロナウイルス感染症対策のために始めた時間単位のこまめな消毒、園児や職員の家族を含めた検温等の体調管理、アクリル板やサーキュレーターの設置管理、立ち入り区域制限による送迎の際の保護者対応など、職員の日々の業務が増大しました。新型コロナウイルス感染症が国内で広がりつつあった当初はみんなが必死に防御のための感染対策を行いました。そしてそれが日々の業務となり、本来であれば保育に当たる時間を削減したり、人員配置を変更したりせざるを得なくなった部分があるのではないでしょうか。給付費と同じく、そこにある財源で何とかやっていくしかない、赤字は出さないように運営するのと同様に、保育者の勤務時間内に何とかやっていくしかない、残業はしないよう感染症対策をやっていくという考えです。陽性者が出た場合は濃厚接触者調査への協力等のため、或いは消毒作業のために時間外勤務が必要になることもありますが、いつ収束するとも分からない感染症への対応について時間外対応を基本とするのは、職員のモチベーションとして継続する事が難しく、また目指すべき魅力ある職業として相反するものがあります。しかし、そこで削られてしまった保育に係る人材と時間は、どのように補われているのでしょうか。消毒や健康管理、玄関送迎のための人員配置を増員した場合、それはいつまで続けたら良いのでしょうか。

園が健康で安全な生活の場であることを基盤としつつも、今は長期化する新型コロナウイルス感染症に対する対策の中で、子ども達の育ちに必要な生活の場とは何か、その日常をいつどのように取り戻すべきか、感染症対策と同時に保育の質の向上に取り組むにはどのようにするのか、悩ましいところです。ウィズコロナは今後も続いていきます。保育実施と感染予防対策とのバランスを見極めながら、何を止めて何を残し、何を再開するのか、今後も保育現場では模索が続きます。

考察⑧　支援を的確に受けながらの施設運営

Q1と Q13、Q14 の クロス集計		Q13 国の令和2年度第2次補正予算である『保育所等におけるマスク購入等の感染拡大防止対策に係る支援』(補助割合 国:10/10)で活用した事例をお選びください。(%)						Q14 令和2年度第3次補正予算の『保育所等・・・の支援』についてお答えください。(%)	
		実数	マスク、フェイスガード等の物品購入	消毒液や噴霧器等の物品購入	温度計やサーモグラフィー等の検温に関連する物品購入	間仕切り、パネル等の飛散防止に関連する物品購入	消毒に関連する人件費	この緊急対応策を今まで知らなかった。	知っており、この施策の助成を受けた。／受ける予定。
全体		2114	81	89	72	40	14	10	79
Q1 ご回答頂いている方の施設がある都道府県をお答えください。	北海道	72	85	85	57	40	6	11	72
	青森県	22	73	82	73	27	14	9	73
	岩手県	13	77	92	92	31	8	15	77
	宮城県	2	100	100	100	100	0	0	50
	秋田県	72	89	89	76	11	1	6	74
	山形県	25	88	92	64	36	12	0	100
	福島県	0	0	0	0	0	0	0	0
	茨城県	13	62	77	77	15	15	23	54
	栃木県	18	89	94	67	39	6	6	83
	群馬県	45	82	96	78	47	7	18	73
	埼玉県	18	89	94	94	44	28	11	67
	千葉県	76	70	86	71	42	5	5	84
	東京都	130	82	91	68	59	18	10	75
	神奈川県	45	73	78	67	36	16	4	93
	新潟県	0	0	0	0	0	0	0	0
	富山県	2	100	100	50	0	50	0	100
	石川県	8	75	75	75	50	38	0	75
	福井県	6	83	100	83	33	17	0	100
	山梨県	0	0	0	0	0	0	0	0
	長野県	3	67	67	67	33	0	33	67
	岐阜県	52	71	88	69	52	21	2	81
	静岡県	141	85	89	74	49	9	14	72
	愛知県	61	77	90	67	41	11	8	87
	三重県	13	92	92	77	54	15	8	92
	滋賀県	16	94	100	81	56	13	0	94
	京都府	73	77	84	70	41	19	18	73
	大阪府	185	88	91	76	51	19	4	89
	兵庫県	161	80	90	77	49	25	14	81
	奈良県	7	71	100	71	57	0	14	86
	和歌山県	6	50	83	50	0	50	0	67
	鳥取県	17	76	71	59	35	12	12	71
	島根県	42	90	90	71	33	5	12	76
	岡山県	19	79	95	68	26	16	5	68
	広島県	102	80	89	79	38	9	6	84
	山口県	8	100	88	88	0	13	25	75
	徳島県	61	67	84	72	39	16	13	77
	香川県	1	100	100	0	0	100	0	100
	愛媛県	1	100	100	100	0	100	0	100
	高知県	29	86	93	69	41	7	3	72
	福岡県	223	78	90	68	44	19	12	78
	佐賀県	2	100	100	50	0	0	50	50
	長崎県	80	79	94	76	25	13	8	80
	熊本県	42	76	86	71	33	14	5	74
	大分県	15	93	100	60	13	20	0	100
	宮崎県	79	81	94	62	19	13	9	68
	鹿児島県	39	72	87	69	23	8	21	67
	沖縄県	69	91	94	75	28	17	13	84

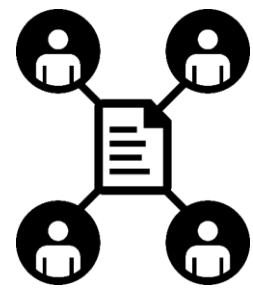
国や市区町村の支援の状況を把握するためにQ13、Q14を設けた。行政による違いがあるのではないかという予想のもと、Q1の都道府県データとのクロス集計をもとに比較した。(紙面の都合により全体平均で10%未満の項目は割愛した)

Q13において、マスク、消毒液等の購入に大きな変化はなかったが、パネル等の飛散防止に関連する物品購入については比率のバラつきと、感染拡大が大きい地域の比率が若干大きいように思う。(赤枠)

飛散防止対策用品に関しては設置する効果は分かっているが、設置すればするほど消毒等の労力も増えるため、感染状況がひどくない場合は導入を見合わせていることも考えられる。

Q14については助成を利用するが約8割となっており、施設の支援になっている。しかしまだ『知らなかった』9.7%、『市区町村が取り組まない』3.2%(単純集計参照)との回答を考慮するとさらに1割ほどは伸びる余地がある。

設問作成時に予想した都道府県毎による大きな特徴は確認できなかったが、コロナ以前のように口伝えによる広報が難しい状況であるため、行政へは簡潔で分かり易い情報の発信を希望し、受け取り側になる施設としては情報を取りに行く姿勢がまだまだ求められるだろう。



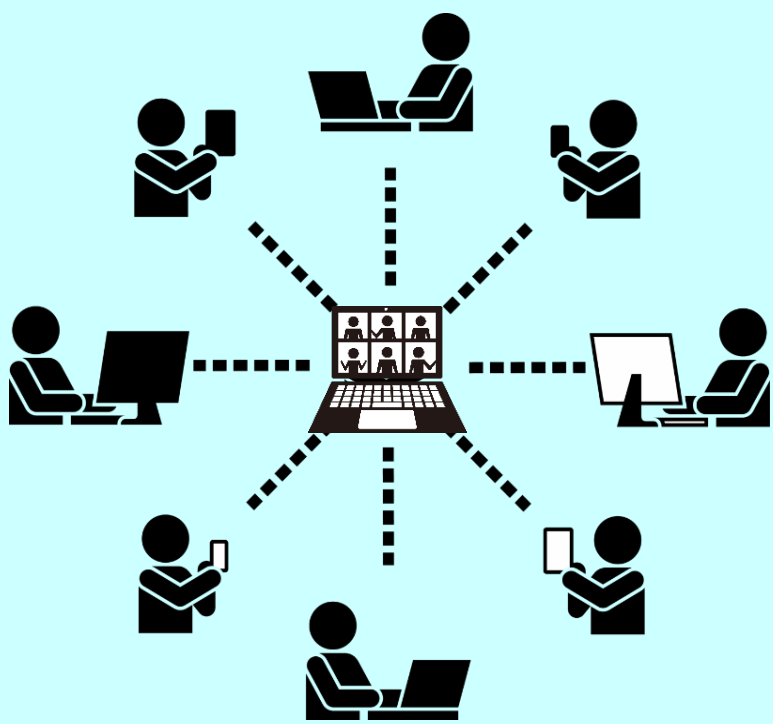
コラム③　国の支援がより現場で活用されるために

新型コロナウイルス感染症対策に必要な措置を講じることで、子ども及び職員の安全を確保するとして、国から第3次補正予算である「保育所等におけるマスク購入等の感染拡大防止対策に係る支援」の補助金が交付されています。その活用事例について、今回の調査では、物品購入が大半ですが主にマスクや消毒液などの消耗品、3密回避に必要な飛散防止物品などの割合が大きくなっています。また、施設内の消毒に関連する人件費などもそれに続いています。

今回は新型コロナウイルス感染症対策補助金の基準額が減額となっており、補助割合も国:1／2、県・市:1／2で、国:10／10から変更となっています。対象経費はかかり増し経費や職員個人が施設や日常生活において必要とする手荒れ防止用のハンドクリームや帽子、手袋など細部に亘っています。通常保育分においては、備品の購入や感染予防啓発の広報のみにならないよう、原則職員に対する手当て等の支給や物品の購入支援を積極的に行うよう謳っています。職員が感染症対策の徹底を図りながら保育を持続的に提供していくためには、大変心強い支援でありますが、十分活用している園もあれば、この施策を知らない園があったり、自治体によって支援体制が異なっていたり、申請準備に余力がないため活用していないなど様々です。
活用している事例の中で、電解水素水整水器を設置し、職員や園児の健康管理から免疫力アップで感染予防まで行っている園もありました。

また、視点を変えて考えてみるとどうでしょう。ウィズコロナで保育現場では保育環境の見直しが求められ、行事や会議、研修等の在り方に変化が見られませんか。様々な会議や研修についてはオンラインで行われることが日常的になってきているようです。そこで、こんな声をよく耳にします。園にオンラインで研修ができる環境が整っていない、個別で研修できる部屋(場所)がないなど、研修に参加したくてもできないという訳です。部屋の問題は、物理的に困難で整えるには時間も費用もかかるでしょう。
そう考えると、自治体によって取り組みがなされていないという実態については、いささか疑問を感じます。職員が研修によって学びを得るということは、保育の質の向上、そして、施設力、地域力しいては未来を担う子どもたちの豊かな育ちにつながっていくことということです。その過程には人財育成の構築も図られるでしょう。

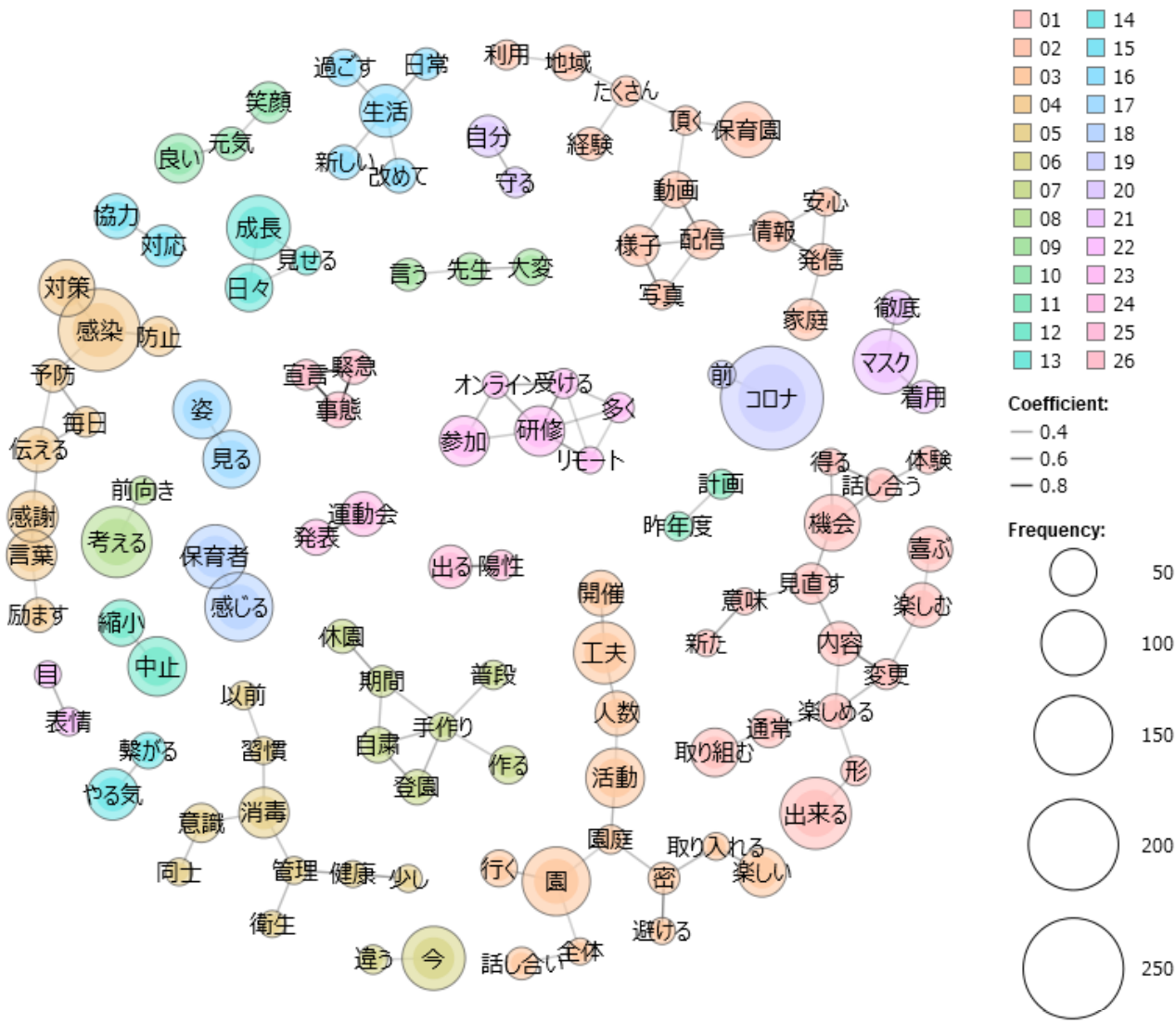
今後においても新生活様式の中でオンライン研修が併用された研修体制になっていくことを考えると、各園で研修できる環境を整えていくことが必要になってきます。
このように、国の支援と補助は園運営に大きな力となってジョイントされているのです。だからこそ、子どもたちと保護者、職員に安心を届けるため、国や自治体の支援(サポート)は欠かせないものと言えるでしょう。



考察⑨ コロナ禍でも前向きに（Q15自由記述から）

Q15ではコロナ禍にあっても子どもたちの成長や職員のやる気につながる取り組み・エピソードとして753件の多岐にわたる貴重なご意見を頂戴した。最初期の緊急事態宣言が2020年4月7日に出された際、新型コロナウイルスに関する情報も少なく、衛生物資も入手が困難な状況下で原則開所の方針が示されるなか、大多数の保育施設においてエッセンシャルワーカーの勤務を支える最前線として、日々子どもたちの受入れと保護者への対応がなされてきた。今回寄せられたご意見はそのような中でそれぞれの施設が日々様々に葛藤しながらたどり着いた現時点での最適解といえる。皆様の尽力に一人の保育者として敬意を表するとともに、共感と感謝とともに紹介申し上げる。

各自由記述に着目したKHcoderによる共起ネットワーク



＜コロナ禍における行事や習慣の見直し＞

◯密になるという理由から行事（運動会や発表会など）の内容を見直したが、見直したことでコロナ対策だけでなく、行事そのものの意味を考えるきっかけになったり、保護者や職員から観客が少なく見やすかった、内容が良かったとの好意的な意見も多くもらえたりしたこと。
◯新型コロナ感染症に対する正しい知識と科学的な感染症対策のための情報提供をしていくことと、行事や日頃の保育も子どもの成長のためにどんな活動が必要か自分たちの保育を見直し振り返り安全に実施できる方法をみんなで考えたことが職員のモチベーションになった。

◯コロナは大変だったが、保育を見つめ直すのにとても良かったと思う。今まで運動会や発表会、敬老会など、様々な行事に追われていた1年間だったが、ほとんど行事が出来なかったので、保育者や子ども達にもゆったりとした、いい保育が出来た。振り返ると、今までの行事は、保護者が喜ぶための行事だったと気づき、行事を一から見直す事で、子ども達が考えて作る主体性のある行事に変換していけるのだ、と自信がつきました。保護者は行事がなく寂しいでしょうが、それを理解していただけるようなきっかけを与えてくれたことに感謝です。また、玄関での受け入れはとてもいい結果を生み出しました。毎年困っていたインフルエンザですが、1件もなかったことが驚きです。手洗い、消毒、検温、マスクの効果もありますが、保育園には色々な人が出入りしないほうがいいということが十分にわかりました。
◯コロナ禍だからと行事を中止にするのではなく、だったらどういう風にすれば開催できるかと職員間で話し合いをし、やり方は違えど運動会や遠足・お遊戯会を開催できたのは職員にとっても、また子どもたちにとってもいい経験になったと思います
◯感染症に対する意識が職員にも子どもたちにも芽生えた。行事を乳児と幼児に分けることで、内容が見直され発達にあったものになっている。

＜マスクに関してのいろいろ＞

◯職員全員がマスク着用で勤務しており、子ども達へ表情が伝わりにくい状況にありますが、コロナ禍だからこそ、今まで以上に『真心込めて保育をしよう』『真心込めて給食やおやつを提供しよう』と心がけています。
◯園ではマスク生活が日常となりましたが、子ども達は職員の目だけで心を汲み取り、赤ちゃんでさえ可愛い微笑みをかえしてくれています。「目は口ほどに物を言う」「目は心の窓」と言われるとおりすべての感情が現れる目の大切さを日々感じています。マスク下の笑顔が増えるようコロナに負けず日々過ごしていきたいと思います。
◯保育者は皆マスクを着け園児に接しているが、園児はマスクなしで、園庭を駆け回っている。（部分抜粋）
◯職員は常時マスクをしているのですが、マスクに動物の顔を描いてクマやネズミになったりしています。今ある状況を上手に利用した素晴らしいアイデアだなと感心しました。
◯今ではマスクの供給がされていますが手に入らなかったとき地域の方々が手作りのマスクや消毒液を保育園に　と持ってきてくれました。地域に支えられている保育園を実感しました。私たちも地域に根差す保育園として何ができるか考えています。（部分抜粋）

＜給食について＞

◯食事中は保育者の指導もあって、皆　おしゃべりもなく　もくもくと食べています（部分抜粋）
◯保育でソーシャルディスタンスを確保することは不可能な状態であるが、給食の時間はシールドの活用や、おしゃべりを我慢するなど、子ども達なりに感染防止対策を理解し健気に取り組んできました。
◯購入してすぐに給食時パーテーションを立て、なぜ立てるのか説明しょうとしたが、その前に子どもの方から「コロナだもんね。」と言って触ることもせず、倒すこともなく職員の心配は不要であった。
◯平常に近い保育を続けられた事、変わらず給食やおやつを美味しくいただける事が子ども達の成長に繋がっていると実感しました。またその姿をみて職員のやる気に繋がりました。

＜ワクチンや慰労金について＞

◯保育園は働く保護者のため（特に医療従者）に緊急事態宣言中、休園措置は取りませんでした。保育者にも基礎疾患があったり、高齢者の少し下の方もおり、いろいろな職種の保護者や園児との接触とリスクを背負っての勤務でした。慰労金やコロナワクチン接種の優先等をもう少し高い位置に考慮していただけたらと思います。
◯コロナ過でも、園を閉鎖することなくおこなっているため、1日も早くワクチン接種を優先的に進めていただきたいと思います。7月中には終了できるよう、計画をお願いいたします。

◯職員は緊急事態宣言下でも最前線で保育を提供してきて、心も含めて疲弊していたが、市の決定で保育者に対して慰労金を出していただいたので、そこはかなり救われたと考えていますし、非常にありがたい決定でした。暗くなりがちな保育現場においても、職員のモチベーションアップに繋がったと思います。
◯やる気が出たかはわからないが、登園自粛期間中はいち早く給与の保障を打ち出した。人事院勧告がマイナスとなる中、慰労として賞与を微増とした。(部分抜粋)
◯保育者は、保護者の就労と子どもたちの成長を守るために、緊急事態宣言が解除されても、仕事以外で外に出ないようにしたり、衛生管理を徹底したりして自分が感染しないように神経をすり減らしながら生活しています。そのような保育者に、園独自で賞与と併せてコロナの慰労金を支給しました。コロナ禍で医療関係や介護関係の方々も大変な苦労をされながら社会を支えるために努力をされたと思います。そしてその方々には国から慰労金が給付されています。保育者も同じように医療や介護を提供するために必要な土台を様々な犠牲をはらいながら作ってきたと思います。感謝の言葉だけでなく、形として日頃の努力を労う機会を作ると保育者としての誇りにも繋がります。

＜感謝の気持ち＞

◯日々コロナウイルス感染リスクと対峙しながら職務に励む職員達に感謝！
◯マスク入手困難なコロナ蔓延初期、保護者から園にマスクを寄贈していただいた。いつもありがとうとの感謝の言葉が添えられており、職員のやる気が上昇した。
◯マスクや消毒液が手に入らない時期に、一部の保護者からマスクや消毒液を寄付していただけたこと。お花をいただいたこと。
◯家庭保育の協力を多くの保護者が率先して行動してくれた、そして保護者から「大変な時に子ども達を預かってくれてありがとうございます」のお声かけやお手紙をいただき、さらにマスクやお菓子、飲み物などの差し入れがあった。頑張ってきてよかった、報われたとの職員からの感想が聞かれた。
◯「コロナやったけど楽しかった！」を合言葉に、保育や行事の見直しや小集団での保育実践などを行っています。最低基準の人員配置の中、猛暑でのマスクをつけてのプール遊びなど本当に頭が下がるほど現場の職員は、小さなプラスを喜びに変えて頑張っています。

＜子どもたちのすがた＞

◯行事の制限がありましたが、理解、納得して頂けない保護者の対応に大変苦慮しました。その中で、必死にコロナ防止に努め、今できることを精一杯の方法で実施しました。そのような中でも子どもの成長した姿をみて、保育園への感謝、保育者への感謝の言葉もいただくことができ、改めて社会の支えであることを実感しました。職員の結束も強化されたと思います。
◯コロナ禍で、いろいろな制限がある中でもがんばっている子どもたちの姿や笑顔に職員も勇気と元気をもらっています。
◯卒園を期に一年を振り返った時、沢山の行事が中止になったり、活動に制限があったりと、例年通りに教育保育が出来なかった1年になったと悔やんでいました。そこに、自園の年長児の姿を見て、外部講師や地域の方々が、「成長したね。」という言葉を掛けて下さり、どんな状況でも、関わる職員の思いが変わらなければ、子ども達は成長できると改めて感じました。
◯裏の畑でのびのびと泥んこ遊びをする姿等、子どもたちの生き生きした姿をみたり感じたりするとき。コロナ禍での園の取り組みに保護者が理解をし、温かなことばをよせてくださるとき。
◯いろいろな制限がある中、保育者も子どもたちも元気に保育園に来てくれているだけで救われる。大変な中でも、子どもたちが笑っていてくれるこれだけで前に進むことができると思う。

＜IT活用の取組み＞

◯今まであまりIT化が進まなかったが，必要に迫られて職員が学ぶようになった。ドキュメンテーションを活用して園内研修をしたり，保護者に園での様子を配信する事により，職員のIT技術が向上するとともに保育の質向上にもつながっている。オンラインでの研修も，行かなくても良いので沢山参加することが出来，職員間での共通理解もしやすくなった。
◯WEB研修を多く受けるようになり、今まで首都圏へ行かないと受けられない研修も多くの職員が受けられるようになったのは良かった。 行事の参観の人数制限は、こどもたちの姿を、ゆったり見ていただけることができ保護者の評判も良かった。
◯コロナ禍の行事では保護者全員を集めることができないので、動画を公開して日常の生活や、行事の取り組みなどを紹介している。いままで目にすることがなかった所がみられるようになったため好評である。また保育者たちの苦労を目の当たりにするため、保護者の理解が得られやすくなった。
◯ドキュメンテーションを毎日作っていましたが、保育室内の掲示であったため、保護者の入場制限のため見ていただくことができなくなりました。そのため、週に2日分をプリントアウトし、配布を約1年間行いました。現在はホームページで、毎日のドキュメンテーションを見ていただけるようしています。コロナ禍という状況になったことで、予定を前倒しして行うことができたと思います。
◯園児、職員は家族、濃厚接触はやむを得ない。をコンセプトに日常の保育を続けています。このタイミングでICTの仕組みを構築し、ICT推進部に若手職員を配置し、中心的な役割を担わせることができ、活躍の場が増えた。

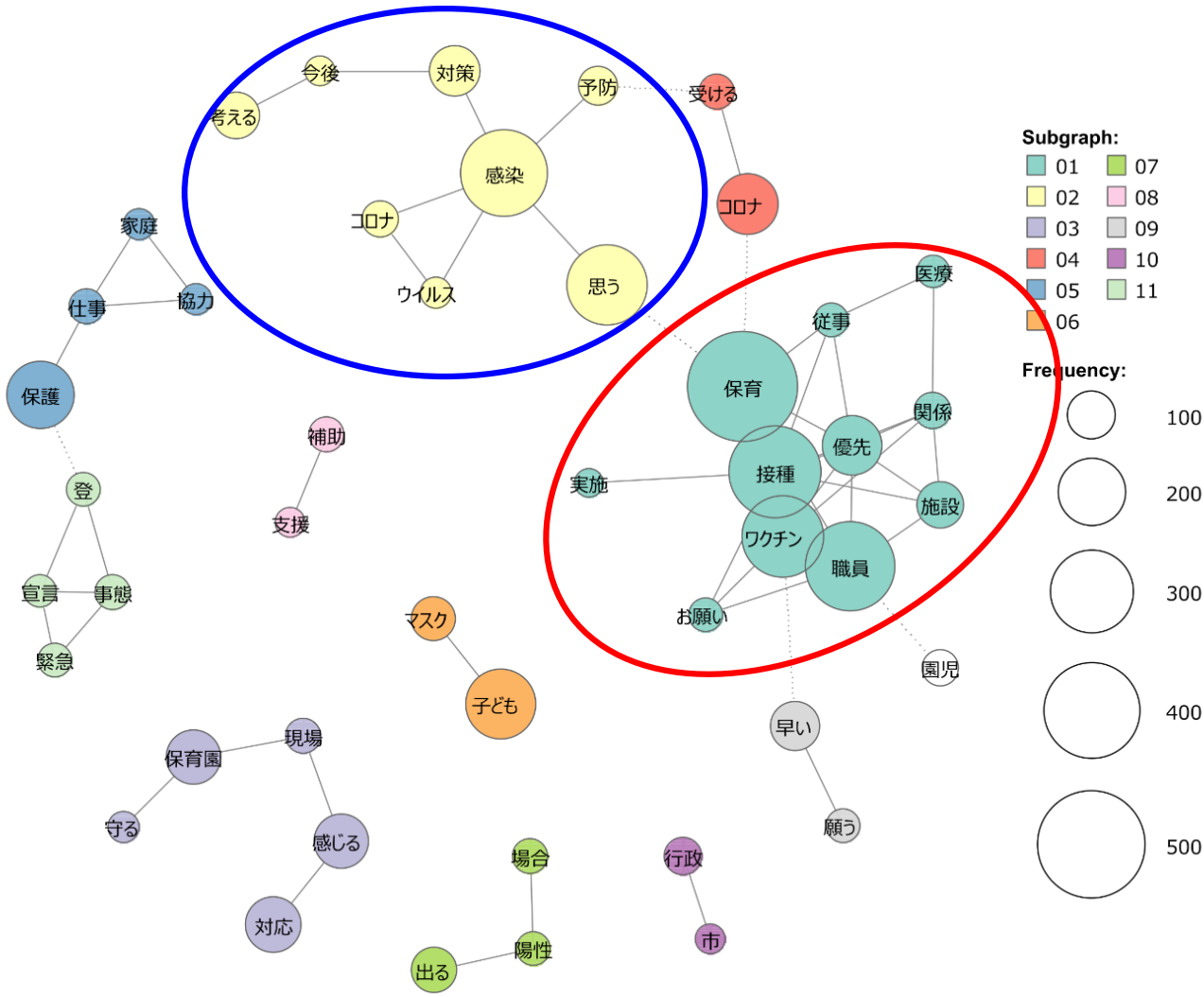
＜濃厚接触者・感染者の発生＞

◯園において職員が新型コロナウイルス感染症の陽性者が出たため、2日間臨時休園をした。全職員が再開に向けて園児を迎えるために夜間に教室内等を消毒作業をしたことで団結力が増し、協力し合えたことは大きな財産となった。
◯園児が2度陽性となり、園が休園となりご利用者様に多大なご迷惑を掛けてしまった。ただし、日頃からの保護者との良好な関係を職員一人ひとりが心掛けていたお陰でご利用者からの大きなクレームは無かった。寧ろ励まされ、労いのお言葉を頂けたのが気持ちが救われた。1度目の陽性園児が出た時、近所の公園散歩に出掛けていた為、近所の園から「〇日●●公園に行ったか？接したか？」との乱暴な問い合わせが入って、物凄く嫌な気持ちになった。偏見、差別は絶対あってはならないと職員に共有し、人権の大切さを学びました。コロナ禍の職員の精神衛生面を留意していかねばならないと感じました。
◯1回目の緊急事態宣言が終わり、久しぶりに登園してきた子どもたちの園庭で元気に遊ぶ姿を見て癒された。陽性者が発生しても、決して責任を感じることのないように「保育関係者」が陽性になったとの表現にとどめ、誰しもかかりうるものなので保護者・職員に説明をし、何があっても守る姿勢を理解してもらった。誰が陽性になったかを知りたいという要望もあったが、上記の理由で理解していただいたことがうれしかった。また、守ってもらえると職員が感じ、モチベーションアップにつながった。
◯保護者がコロナにかかった職員に対して心配の言葉、暖かい言葉、励ましの言葉を掛けてくださったことで、何とか乗り越えることができました。
◯実際に園児や保護者に陽性者が出たが、幸い感染可能期間の登園ではなかったので、休園にはならなかった。しかし園児が長期で休むと噂になりやすいので、守秘義務と人権感覚を園内で徹底するように研修を行った。不幸にも感染した方々に病気以上の苦痛を与えないことを心しながら働く意味は大きいと思われた。

情報や衛生消耗品が絶対的に不足したコロナ感染拡大初期（2020年春）をはじめ、出口の見えない長い対応となることが明らかになってからも保育士・保育教諭をはじめ、調理員やその他職員、そして管理者は全力で子どもたちと保護者の生活を支えるために最善を尽くしています。この暗いコロナ禍において日々業務に向かう原動力の多くは今回Q15で寄せられたように、目の前の子どもたちの変わらぬ成長を見守る喜びや、関係者から寄せられる感謝の気持ち、職員たちのコロナ禍における新たな保育の創造にあったのではないでしょうか。こと保育という職業に携わる皆様の本質を強く示す結果だと感じます。

この職業的精神を誇らしく思うとともに、一方で、使命感に燃え、燃え尽き症候群で保育業界から去ってしまう人財を一人でも減らすために、各園の保育に対する社会からの正当な評価や専門職としての職業的地位の向上、処遇の改善につながっていくことを願わずにはおられません。

考察⑩　園児受入と感染予防対策の矛盾（Q16自由記述から）



各自由記述に着目したKHcoderによる共起ネットワーク

上図はQ16自由記述におけるテキスマイニングの共起ネットワークである。
もっとも大きなクラスター（赤丸）は施設関係者のワクチン優先接種であった。この調査の回答期間がちょうど多くの自治体で医療関係者と高齢者へのワクチン接種完了の目処が立ち、次は一般接種の開始というタイミングでその前に保育施設関係者の優先接種を望む声が多く、この自由記述にも表れた。実際多くの自治体で実施されたことで保育施設の不安の軽減に大きく寄与したと思われ、関係各位のご尽力に感謝するところである。

次に大きなクラスター（青丸）は感染予防対策に関するものであったが、保育施設における感染予防対策の限界と矛盾を感じる内容だった。社会基盤を支える役割として保育施設が園児を原則受入にすることは理解出来ても、実際に園児の日々の登園（施設利用）を決めている保護者の感覚がコロナ前と変わらず、登園を控えて欲しい場面でも受け入れている状況が少なくないようだ。また施設関係者から感染者が出た際に施設側の対応不足を指摘されることがあるようだが、コロナ前の人的配置と保育環境をベースにした感染防止対策にはどんなに頑張っても限度があることを社会全般が分かっていないのではないかという不安を読み取った。保育施設における『社会の正当な評価』という内容には正しい現場の理解という意味が含まれていると思う。

新型コロナウイルス感染症に関する調査 2021
[調査項目]

※令和3年6月1日時点の状況をご回答下さい。

Q1. ご回答頂いている方の施設がある都道府県をお答え下さい。

Q2. ご回答頂いている方の施設がある市区町村をお答え下さい。

Q3. ご回答頂いている方の施設の法人格をお答え下さい。

○社会福祉法人 ○学校法人 ○宗教法人 ○NPO 法人 ○株式会社 ○有限会社 ○個人
○一般財団法人 ○公益財団法人 ○一般社団法人 ○公益社団法人 ○医療法人 ○その他

Q4. ご回答頂いている方の施設の施設種別をお答え下さい。

○保育所 ○幼保連携型認定こども園 ○保育所型認定こども園 ○地域裁量型認定こども園
○幼稚園型認定こども園 ○小規模保育 A ○小規模保育 B ○その他

Q5. ご回答頂いている方の役職をお答え下さい。[複数選択可]

○理事長 ○理事 ○園長 ○副園長 ○主任保育士・主幹保育教諭 ○その他

Q6. 令和2年4月から令和3年5月までの貴園における新型コロナウイルス感染症の状況について、以下の内、該当するものを全て選択して下さい。[複数選択可]

○職員・園児・保護者に陽性者はいなかった
○職員に陽性者あり
○園児に陽性者あり
○保護者に陽性者あり
○クラスター(陽性者5人以上)が発生した
○その他(自由記述)

Q7. 前問 Q6の対応として貴園が実施したことを教えて下さい。[複数選択可]

○通常通りの開所
○学年、クラスを限定した部分休園
○全体休園
○その他(自由記述)
→「学年、クラスを限定した部分休園」・「全体休園」・「その他」のいずれかを選択した場合のみ、Q8へ

Q8. 前問 Q7の対応期間としてもっとも近いものを選んで下さい(※土日も含めた日数)。

○1日未満 ○1日 ○2～3日 ○4～6日 ○7～10 日 ○11～15 日
○16～21 日 ○22日以上 ○その他(自由記述)

Q9. 通常保育と並行してコロナ感染防止対策を行う人的余裕について教えて下さい。

○十分余裕がある
○適正である
○ギリギリである
○不足している

Q10. 以下のコロナ感染防止対策事例の効果について感じていることをお選び下さい。

＜マトリクス横項目＞
[1]効果がある [2]やや効果がある [3]効果はほぼない [4]わからない

＜マトリクス縦項目＞

①衛生物資の在庫確保・入手先確保
②職員・来園者用の手指消毒備品設置
③現金を介さない集金システムの導入
④職員の体調管理の徹底
⑤職員の家族を含めた体調不良の報告
⑥搬入・納品事業者への入館制限
⑦登園・降園時の保護者の入館制限
⑧従来より小集団での保育の実施
⑨子どもの検温など体調管理の徹底
⑩園庭の遊具の洗浄や消毒
⑪施設内の遊具・備品の洗浄や消毒
⑫子どもの排便後のトイレ消毒
⑬職員の消毒処理技術向上
⑭職員への感染予防知識提供
⑮間仕切りシートなどによる飛散防止対策
⑯換気窓・換気設備の増設
⑰検温や体調管理に専用機器を導入
⑱次亜塩素酸水等の生成器導入
⑲子ども向け動画の配信
⑳園児に対する感染予防教育
㉑屋外活動の頻度を増やす
㉒外部講師活動の自粛
㉓園外学習・交流の制限
㉔行事おける制限(人数、時間、場所)
㉕園から家庭へインターネットを活用した情報発信
㉖テレワーク技術を活用した保護者との対話、会合
㉗職員間においてアプリなどを活用した情報伝達
㉘e ラーニング・テレワーク技術等を活用した研修実施
㉙他の保育施設との情報ネットワーク仕組み作り
㉚行政との情報ネットワークの仕組み作り

Q11. 以下のコロナ感染防止対策事例(※前問と同じ)の労力(手間がかかる、実施がしづらい等)について感じていることを選んで下さい。

＜マトリクス横項目＞
[1]労力がかかる [2]やや労力がかかる [3]労力はほぼない [4]実施していない

＜マトリクス縦項目＞

①衛生物資の在庫確保・入手先確保
②職員・来園者用の手指消毒備品設置
③現金を介さない集金システムの導入
④職員の体調管理の徹底
⑤職員の家族を含めた体調不良の報告
⑥搬入・納品事業者への入館制限
⑦登園・降園時の保護者の入館制限
⑧従来より小集団での保育の実施
⑨子どもの検温など体調管理の徹底
⑩園庭の遊具の洗浄や消毒
⑪施設内の遊具・備品の洗浄や消毒
⑫子どもの排便後のトイレ消毒
⑬職員の消毒処理技術向上
⑭職員への感染予防知識提供
⑮間仕切りシートなどによる飛散防止対策
⑯換気窓・換気設備の増設
⑰検温や体調管理に専用機器を導入
⑱次亜塩素酸水等の生成器導入
⑲子ども向け動画の配信
⑳園児に対する感染予防教育
㉑屋外活動の頻度を増やす
㉒外部講師活動の自粛
㉓園外学習・交流の制限
㉔行事おける制限(人数、時間、場所)
㉕園から家庭へインターネットを活用した情報発信
㉖テレワーク技術を活用した保護者との対話、会合
㉗職員間においてアプリなどを活用した情報伝達
㉘e ラーニング・テレワーク技術等を活用した研修実施
㉙他の保育施設との情報ネットワーク仕組み作り
㉚行政との情報ネットワークの仕組み作り

Q12. Q10、Q11 で示した事例以外にも、効果がある、必要とされるコロナ対策が考えられます。以下の事例の中で効果がある、必要とされると思われるものを最大5つまでお選び下さい。[複数選択可]

○職員に対しての定期的な検査(PCR 検査)
○職員に対しての定期的な検査(抗原検査)
○施設関係者におけるワクチン接種の優先対応
○職員の行動制限(5人以上の会食を控える、県境を越えない等)
○国負担100%のコロナ対策支援(補助金)
○コロナ対策補助金の使途範囲の拡大
○消毒・衛生管理のための専任職員の採用
○施設関係者に陽性者・濃厚接触者発生時の検査機関からの情報提供
○施設関係者が陽性となった場合のプライバシーの保護、情報制限
○クラスター発生時の行政支援(消毒対応)
○クラスター発生時の行政支援(代替保育)
○地域の感染拡大時における一斉休園の実施
○キャリアアップ研修受講必須化の期限延長
○保護者の協力
○原則開所に対する社会の順当な評価
○その他(自由記述)

Q13. 国の令和2年度第2次補正予算である『保育所等におけるマスク購入等の感染拡大防止対策に係る支援』(補助割合 国:10/10)で活用した事例をお選び下さい。[複数選択可]
※具体的内容については下記 URL をご参照下さい。
https://www.mhlw.go.jp/content/11920000/000640677.pdf

○マスク、フェイスガード等の物品購入
○消毒液や噴霧器等の物品購入
○温度計やサーモグラフィー等の検温に関連する物品購入
○間仕切り、パネル等の飛散防止に関連する物品購入
○消毒に関連する人件費
○小集団保育に関連する人件費
○体調管理に関連する人件費
○研修受講に関連する人件費
○感染対策相談窓口の設置に関する費用
○専門家による相談支援に関する費用
○活用しなかった
○その他(自由記述)

Q14. 国の令和2年度第3次補正予算である『保育所等におけるマスク購入等の感染拡大防止対策に係る支援』(補助割合 国:1/2、市区町村等:1/2)(令和3年度にも活用可能)についてお答え下さい。
(今後の見込みを含めてご回答下さい。)
※具体的内容については下記 URL をご参照下さい。
https://www.mhlw.go.jp/content/11920000/000769274.pdf

○この緊急対応策を今まで知らなかった。
○知っており、この施策の助成を受けた。/受ける予定。
○知っていたが、特に必要がないので助成を受けない。
○知っていたが、申請準備に余力がなく助成を受けない。
○知っていたが、市区町村が取り組まないために助成を受けられなかった。
○その他(自由記述)

Q15. 厳しいコロナ禍にあっても子ども達の成長や職員のやる気に向上につながる取り組みやエピソードがあれば教えて下さい。

Q16. 新型コロナウイルス感染症全般に関するご意見等がありましたらご自由にお書き下さい。

＊本報告書に関するご意見、ご感想、お問合せ等は、
下記の全私保連調査部へお寄せくださいませ。

新型コロナウイルス感染症に関する調査 2021

令和3年8月23日編

編者 公益社団法人全国私立保育連盟 調査部
調査部長 齊藤 勝 (山形県・子供の城保育園)
調査副部長 久居麻紀子 (千葉県・音のゆりかご保育園)
調査部員 小川 幸伸 (和歌山市・のざき保育園)
調査部員 田中 育美 (徳島県・とくしま健祥会認定こども園)
調査部員 桑原 靜香 (長崎県・認定こども園 島地シティ夜間保育園)
調査部員 川島 俊樹 (岐阜県・川島東こども園)

問合せ先 公益社団法人全国私立保育連盟
〒111-0051
東京都台東区蔵前 4-11-10 全国保育会館
TEL 03-3865-3880 FAX 03-3865-3879
URL:https://www.zenshihoren.or.jp/
E-mail:ans@zenshihoren.or.jp